みんなの顔が見えるまち

人権シリーズ vol.2

「広報くにみ」が残した人権・同和教育記事に学ぶ

「差別のない明るい町をつくろう！」の合言葉で始まった懇談会から今後の地区懇談会に向けて

国見総合支所の書庫から借用した昭和38年（1963）3月に創刊された「広報国見」、そして閉町により平成18年3月の388号が最終号となった「広報くにみ（昭和51年8月号から改称）」をひもといてみました。およそ40余年の間に先人の行政担当者が、さらに地域町民の方々とが互いにたずさえながら人権・同和問題解消に向け、どのように取り組まれたのだろうか、ふと、そんな疑問が横切ったからです。それは、国見町がその時その時代に抱えた人権・同和問題に対して、それをどのような形で町民の方々に啓発・教育を進め、差別意識の解消を図ろうとしたのか、また、どのような新たな問題点が浮かび上がっていたのだろうかなど、「広報くにみ」の中で先人の実績を知ることは、新市の中での国見町が、人権・同和問題に対してこれからの啓発・教育を進めるヒントがあるのでは、と思ったのです。

〝**同和問題をみんなのものに**〟、これは何と、昭和52年（1977）5月号「広報くにみ」の表紙全面を埋めた活字です。今ふうの写真もない表紙には、「**同和問題をみんなのものに**」の題名と24行におよぶ「はじめの言葉」が掲載されているだけです。下段には当時の町長が「同和問題について」と題した町民への呼びかけ文が添えられています。行政の「同和問題」解消にむけての積極的な取り組みを垣間見ることができました。

これを皮切りに、翌年（1978）の7月号までの間、このタイトルで10回にわたり連載され、最後に「国見町民のみなさん、一人ひとりが『部落問題』の解決を自分の問題として、差別や偏見をとりのぞく努力をされますようにお願いします。」と、結んでいます。時を同じくして、町内幼小中の教職員を対象とした「同和教育研修会」と銘打った講演記事が紹介されています。人間尊重の精神を基本とした民主教育のあり方を問いかけた内容のようです。

また昭和52年度（1977）、啓発・教育推進母体として初めて「**国見町同和教育協議会**」が発足したことを報じています。さらに活動内容として、区長会の協力のもと町内を東・西地区に分け、2年周期で行政区ごと「差別のない明るい町をつくろう！」を合い言葉に研修会が開催され、その内容は16ミリ映写機による映画を鑑賞し、その後講師による話が中心であったようです。

さて、時が移り人権・同和問題は多岐にわたり複雑化しています。それに対応する組織が強化され、行政組織は担当部署の「**社会教育係**」から平成6年（1994）には「**生涯学習課**」へ、さらに「同和教育協議会」は、「**国見町人権・同和教育協議会（町人協）**」へと名称も変わり、人権に関わる8課題に国見町および町民の方々がその解消に向け積極的に取り組む姿がうかがえます。

最後に、この40余年の間、「広報くにみ」が活字として残した行政担当者や懇談会に参加された町民の方々の声を拾ってみる必要性に迫られます。そのことは、新市での国見町が、町内で取り組みやすい組織、さらに参加者にとって実のある地区懇談会、その運営・学習内容・方法などの手がかりを見いだせるかもしれません。

間もなく開催されるであろう「明るい町づくり懇談会」に向け、先人たちが「広報くにみ」に書き残した貴重な意見や提言などを洗い直し、現在に合った形としてつなげていきたい、そんなふうに考えてもいます。

（国見教育事務所生涯学習課）

▲平成17年6月23日　国見町人権・同和教育協議会総会

「差別をなくす仏の里の集い」人権講演会のお知らせ

大分県では、同和対策審議会の答申がなされた8月を「差別をなくす運動月間」と定めています。この運動月間行事の一環として、次のとおり講演会を開催します。入場無料です。皆さまのご参加をお願いいたします。

日　時：8月3日㈭　午後2時45分から　　**場　所**：国東市武蔵町セントラルホール

内　容：演題　「部落差別の現実と市民の人権」

講師　近畿大学人権問題研究所　奥田均教授